

JAMの主張

生活苦への処方箋は **賃上げのみ**

労務費の適切な価格転嫁をめざし

JAM運動のさらなる強化へ

2024年1月1日新年号あいさつ

JAM会長 安河内賢弘

【機関紙JAM・2024年1月1日発行 第299号】



謹んで新年のご祝辞を申し上げます。組合員並びにご家族の皆様におかれましては、幸多き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。2021年ミャンマー軍事クーデター、2022年ウクライナ戦争、そして2023年イスラエル・パレスチナ戦争と人類は愚かな悲劇を繰り返しています。戦争によって犠牲になるのは、自らの正当性を口角泡を飛ばしながら繰り返す各国の指導者ではなく、

生活者や子どもたちであることを忘れることはできません。これらの戦争を決して対岸の火事とすることなく、すべての戦争に反対をし恒久平和を追求していかなければなりません。

平和を守るためには健全な民主主義が必要であり、緊張感のある政治体制が必要です。私たち働く仲間の声を政治に届けるためにも、なんとしても「郡山りょう」を我々の総力を上げて国会に送りましょう。

急激な物価上昇によって私たちの生活は確実に苦しくなっており、日本経済復活のための処方箋は、もはや賃上げしか残っていません。昨年11月29日に内閣官房と公正取引委員会の連名で「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」が公表されました。この指針を実効性あるものにするためにもJAM運動の更なる強化が求められており、2024年をJAM結成以来の悲願である公正取引の確立が大きく前進した年とするのは私たち自身であることを自覚しなければなりません。

今次春闘で、物価上昇を上回る賃上げが実現しなければ、個人消費は縮小し価格転嫁は実現せず賃金は下方圧力が高まり日本は再びデフレ不況へと落ちていくこととなります。

まずは春闘に勝利し、そして「郡山りょう」必勝に向けて、共にがんばりましょう！

結びになりますが、国内外で働くすべての組合員とそのご家族の皆様にとって、2024年が健康で幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ごあいさつと致します。